



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月11日

上場会社名 株式会社あじかん

上場取引所 東

コード番号 2907 URL <https://www.ahjikan.co.jp/>

代表者 （役職名）代表取締役 社長執行役員 （氏名）足利 直純

問合せ先責任者 （役職名）経営管理部長

（氏名）森屋敷 登 TEL 082-277-7010

半期報告書提出予定日 2025年11月12日

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	24,943	△0.6	152	△88.3	260	△80.5	179	△80.5
2025年3月期中間期	25,093	3.5	1,301	123.5	1,337	38.4	922	40.2

（注）包括利益 2026年3月期中間期 141百万円（△87.1％） 2025年3月期中間期 1,098百万円（23.4％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	23.63	—
2025年3月期中間期	121.16	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期中間期	26,948	17,302	64.2	2,273.33
2025年3月期	26,897	17,388	64.6	2,284.71

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 17,302百万円 2025年3月期 17,388百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	52.00	52.00

（注1）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

（注2）2025年3月期期末配当金の内訳 普通配当 25円00銭 記念配当 5円00銭

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,000	△0.1	1,100	△44.0	1,300	△41.5	900	△41.9	118.25

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更： 無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期中間期	7,700,000株	2025年3月期	7,700,000株
2026年3月期中間期	89,053株	2025年3月期	89,053株
2026年3月期中間期	7,610,947株	2025年3月期中間期	7,610,947株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (中間期)

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(中間連結損益計算書に関する注記)	9
(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用や所得環境が改善する中、景気は緩やかな回復がみられる状況となりました。しかしながら、物価上昇の継続に伴う個人消費の下振れ、米国の関税政策に伴う金融資本市場の大幅な変動など、景気回復を下押しするリスクも台頭しており、先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、仕入価格や諸経費が高値で推移していることに加え、人手不足に伴う人件費の高騰など、厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、「“おやくだち”の精神でお客さまや取引先、株主、社会へ貢献し、社員がいきいきと働く風土づくりと安定した収益構造および価値創造ビジネスの推進により、“選ばれる企業”として持続的に成長していく」ことを基本方針とした第13次中期経営計画の2年目をスタートさせ、第一に「収益構造改革の完遂」、第二に「業務用事業の質的成長と拡大」、第三に「ヘルスフード事業、海外事業の成長拡大」、第四に「ごぼう事業、市販事業の新たな価値の創造」、第五に「経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は、24,943百万円（前年同中間期比0.6%減少）となり、前年同中間期実績を下回りました。利益面につきましては、当社の主要原材料である鶏卵が例年は低下傾向にある夏場も需給逼迫によって高値で推移したことに加え、人件費や物流コストの上昇などもあり、営業利益は152百万円（前年同中間期比88.3%減少）となりました。経常利益は、持分法による投資利益や支払利息などにより260百万円（前年同中間期比80.5%減少）となり、親会社株主に帰属する中間純利益は179百万円（前年同中間期比80.5%減少）となりました。

報告セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

①業務用食品等

販売面におきましては、米や海苔などの価格高騰により当社の主力製品を多く使用した巻寿司の需要が減退したことで、かに風味蒲鉾などのすり身製品や、味付かんぴょうなどの野菜加工品の需要が減少しました。加えて、食料品価格上昇の継続に伴う消費行動の変化やインバウンド消費などにより、回転ずしチェーンを中心とした外食業態の需要は上昇したものの、当社の主要取引先であるコンビニエンスストアやスーパーマーケットを中心とした中食業態の需要が減少しました。以上の結果、売価改定による増収効果は一定程度ありましたが、国内売上高は前年同中間期実績を下回る結果となりました。他方、海外輸出売上高につきましては、カリフォルニア州における動物福祉法

(Prop. 12) によって、鶏卵を使用した玉子製品の流通が規制されており、連結子会社のAHJIKAN FOODS, INC. を通じた北米での売上が低調となりましたが、オセアニアや香港、シンガポールを中心に需要が拡大し、前年同中間期実績を上回る結果となりました。

生産面におきましては、生産効率の向上に努めましたが、当社の主要原材料である鶏卵価格が高止まりしていることにより、製造原価率は前年同中間期に比べ大幅に上昇しました。

販売費につきましては、人件費や物流コストの上昇などにより、前年同中間期に比べ増加しました。

これらの結果、外部顧客への売上高は22,796百万円（前年同中間期比1.5%減少）となり、セグメント利益（営業利益）は952百万円（前年同中間期比52.9%減少）となりました。

②ヘルスフード

販売面におきましては、通信販売は、テレビCMを中心に積極的な広告宣伝を実施したことなどもあり、「焙煎ごぼう茶ごぼうのおかげW」をはじめとした機能性表示食品の売上が好調に推移したことで、売上高は前年同中間期実績を上回る結果となりました。他方、ドラッグストアなどでの市販品では、ペットボトルタイプの「おいしい!ごぼう茶」の売上が好調に推移したことや、新規開拓やインスタプロモーションの強化を行ったことなどにより、売上高は前年同中間期実績を上回る結果となりました。

生産面におきましては、生産高が増加したことで固定費率が低下しましたが、主要原材料であるごぼうが高値で推移した結果、製造原価率は前年同中間期に比べ上昇しました。

販売費につきましては、増収に伴う変動費の増加に加え、戦略的な広告宣伝の実施、人件費の上昇などにより、前年同中間期に比べ増加しました。

これらの結果、外部顧客への売上高は1,918百万円（前年同中間期比10.9%増加）となり、セグメント利益（営業利益）は124百万円（前年同中間期比2.1%増加）となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の概況

(資産)

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ51百万円増加し26,948百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ100百万円減少し13,663百万円となりました。主な増減要因は、受取手形及び売掛金の増加202百万円、その他に含まれる前払費用の増加173百万円、原材料及び貯蔵品の増加161百万円、商品及び製品の減少419百万円、現金及び預金の減少235百万円などであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ151百万円増加し13,285百万円となりました。これは、減価償却の進行を上回る取得による有形固定資産の増加に加え、投資その他の資産において、所有銘柄の株価上昇に伴い投資有価証券が増加したためであります。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ138百万円増加し9,646百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ147百万円減少し8,135百万円となりました。主な増減要因は、買掛金の増加305百万円、その他に含まれる未払金の減少312百万円、未払法人税等の減少208百万円などであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ285百万円増加し1,511百万円となりました。主な増加要因は、長期借入金の増加256百万円などであります。

なお、当中間連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ326百万円増加し3,412百万円となっております。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ86百万円減少し17,302百万円となりました。主な増減要因は、親会社株主に帰属する中間純利益の計上による増加179百万円、剰余金の配当による減少228百万円、為替換算調整勘定の減少141百万円などであります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.4ポイント減少し64.2%となりました。

②キャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の中間期末残高は、前連結会計年度末に比べ235百万円減少し2,020百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は300百万円(前年同中間期比87.2%減少)となりました。これは、法人税等の支払額272百万円、その他に含まれる前払費用の増加額171百万円、未払金の減少額157百万円などの資金流出要因もありましたが、売上債権・棚卸資産・仕入債務を合計した運転資本面での獲得315百万円、税金等調整前中間純利益241百万円、減価償却費610百万円などが主な内容となっております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は520百万円(前年同中間期比845.3%増加)となりました。これは、営業システムの整備、生産設備の増強投資・メンテナンス投資などが主な内容となっております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、得られた資金は22百万円(前年同中間期は1,398百万円の使用)となりました。これは、短期・長期借入金の借入による収入326百万円(純額)、配当金の支払額229百万円、リース債務の返済による支出55百万円などが主な内容となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間までの業績は、売上高につきましては、当初予想を若干下回る状況で推移しております。また、利益面につきましては、主要原材料である鶏卵の仕入価格が例年は夏場に低下する傾向にありましたが、前連結会計年度に発生した鳥インフルエンザの影響により減少していた産卵数が猛暑の影響などによって回復せず、当初見込みを上回る水準で推移しました。この結果、各利益において当初予想を下回る状況で推移しております。

なお、通期の業績予想につきましては、冬場の原材料価格や為替、株価など、先行き不透明で流動的な要素も多くありますが、当中間連結会計期間までの状況を勘案し、当初予想を修正しております。

詳細につきましては、2025年11月4日に公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,275	2,040
受取手形及び売掛金	5,753	5,955
商品及び製品	3,535	3,116
仕掛品	64	79
原材料及び貯蔵品	1,586	1,747
その他	556	732
貸倒引当金	△8	△8
流動資産合計	13,763	13,663
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,374	3,322
機械装置及び運搬具(純額)	1,919	1,978
土地	4,155	4,153
リース資産(純額)	250	220
その他(純額)	520	549
有形固定資産合計	10,221	10,224
無形固定資産		
ソフトウェア	614	622
ソフトウェア仮勘定	73	52
リース資産	8	6
その他	3	3
無形固定資産合計	699	684
投資その他の資産		
投資有価証券	961	1,098
長期前払費用	2	2
繰延税金資産	10	12
退職給付に係る資産	417	437
その他	847	851
貸倒引当金	△27	△25
投資その他の資産合計	2,211	2,376
固定資産合計	13,133	13,285
資産合計	26,897	26,948

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,055	3,361
短期借入金	1,760	1,810
1年内返済予定の長期借入金	487	507
リース債務	125	115
未払法人税等	359	151
賞与引当金	327	438
役員賞与引当金	—	23
契約負債	53	52
その他	2,112	1,675
流動負債合計	8,282	8,135
固定負債		
長期借入金	838	1,094
長期未払金	60	60
リース債務	167	141
資産除去債務	54	53
退職給付に係る負債	19	20
繰延税金負債	83	118
その他	1	21
固定負債合計	1,225	1,511
負債合計	9,508	9,646
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,098	1,098
利益剰余金	14,157	14,108
自己株式	△64	△64
株主資本合計	16,294	16,245
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	388	482
繰延ヘッジ損益	△4	4
為替換算調整勘定	710	569
その他の包括利益累計額合計	1,094	1,056
純資産合計	17,388	17,302
負債純資産合計	26,897	26,948

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	25,093	24,943
売上原価	18,202	18,938
売上総利益	6,891	6,004
販売費及び一般管理費	※ 5,589	※ 5,852
営業利益	1,301	152
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	16	25
持分法による投資利益	62	52
為替差益	156	38
その他	13	25
営業外収益合計	249	143
営業外費用		
支払利息	17	17
長期為替予約評価損	189	10
その他	6	7
営業外費用合計	213	35
経常利益	1,337	260
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	21	—
特別利益合計	21	0
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	1	18
特別損失合計	1	18
税金等調整前中間純利益	1,357	241
法人税、住民税及び事業税	440	75
法人税等調整額	△4	△13
法人税等合計	435	62
中間純利益	922	179
親会社株主に帰属する中間純利益	922	179

(中間連結包括利益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	922	179
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4	94
繰延ヘッジ損益	△14	8
為替換算調整勘定	146	△108
持分法適用会社に対する持分相当額	49	△33
その他の包括利益合計	176	△38
中間包括利益	1,098	141
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,098	141
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,357	241
減価償却費	574	610
賞与引当金の増減額(△は減少)	117	110
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	21	23
契約負債の増減額(△は減少)	△6	△0
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△21	△18
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△15	△3
持分法による投資損益(△は益)	△62	△52
受取利息及び受取配当金	△17	△27
支払利息	17	17
投資有価証券売却損益(△は益)	△21	—
有形固定資産売却損益(△は益)	△0	△0
有形固定資産除却損	1	18
売上債権の増減額(△は増加)	1,043	△213
棚卸資産の増減額(△は増加)	176	219
仕入債務の増減額(△は減少)	368	310
未収入金の増減額(△は増加)	10	85
未払金の増減額(△は減少)	△234	△157
未払消費税等の増減額(△は減少)	△67	△78
その他	△294	△510
小計	2,948	573
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△598	△272
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,349	300
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	45	—
投資有価証券の売却による収入	33	—
有形固定資産の売却による収入	0	0
有形固定資産の取得による支出	△232	△520
無形固定資産の取得による支出	△102	△135
利息及び配当金の受取額	124	134
その他	76	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△55	△520
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,345	50
長期借入れによる収入	500	600
長期借入金の返済による支出	△283	△323
利息の支払額	△17	△19
リース債務の返済による支出	△63	△55
配当金の支払額	△188	△229
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,398	22
現金及び現金同等物に係る換算差額	54	△38
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	950	△235
現金及び現金同等物の期首残高	2,096	2,255
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 3,047	※ 2,020

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結損益計算書に関する注記)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
給料手当	1,141百万円	1,187百万円
賞与引当金繰入額	244	237
役員賞与引当金繰入額	19	21
退職給付費用	46	50
貸倒引当金繰入額	△15	△3
荷造運賃	1,120	1,068

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
現金及び預金勘定	3,082百万円	2,040百万円
預金期間が3ヵ月を超える定期預金	△35	△20
現金及び現金同等物	3,047	2,020

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自2024年4月1日 至2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	23,137	1,730	24,867	226	25,093	—	25,093
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	316	316	△316	—
計	23,137	1,730	24,867	542	25,410	△316	25,093
セグメント利益又は損失(△)	2,020	122	2,142	△3	2,139	△838	1,301

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△838百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△907百万円及び棚卸資産の調整額68百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自2025年4月1日 至2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	22,796	1,918	24,714	229	24,943	—	24,943
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	371	371	△371	—
計	22,796	1,918	24,714	600	25,315	△371	24,943
セグメント利益	952	124	1,077	22	1,099	△947	152

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益の調整額△947百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△952百万円及び棚卸資産の調整額4百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。